



16th
TOKYO
JAZZ
FESTIVAL

〈 Shibuya WWW 〉

9.1 fri

〈 Shibuya WWW X 〉

THE GRAVITY PROJECT

ポール・グラボウスキー
Paul Grabowsky(p)
ロバート・バーク
Rob Burke(sax)
ニラン・ダシカ
Niran Dasika(tp)
サム・アニング
Sam Anning(b)
ジョー・タリア
Joe Talia(ds,electronics)

18:45 open
19:45 start

Selim Slive Elementz

小川隆夫 Takao Ogawa(g, producer)
平戸祐介 Yusuke Hirado[quasimode](key, Musical Director)
元晴 Motoharu(ex.SOIL&PIMP'SSESSIONS)(sax)
栗原健 Takeshi Kurihara[mountain mocha killmanjaro](sax)
小泉P克人 Yoshihito "P" Koizumi(el-b)
コスガツヨシ Tsuyoshi Kosuga[cro-magnon](g)
大竹直寿 Shigekazu Otake[cro-magnon](ds)
西岡ヒデロー Hiderow Nishioka[Conguero Tres Hoofers](per)

17:00 open
18:00 start

WONK

長塚健斗 Kento Nagatsuka(vo)
江崎文武 Ayatake Ezaki(key)
井上幹 Kan Inoue(b)
荒田洸 Hikaru Arata(ds)

20:15 open
21:15 start

TRI4TH

織田祐亮 Yusuke Orita(tp)
藤田淳之介 Junnosuke Fujita(sax)
竹内大輔 Daisuke Takeuchi(p)
関谷友貴 Tomotaka Sekiya(b)
伊藤隆郎 Takao Ito (ds)

14:00 open
15:00 start

Yaron Herman & Ziv Ravitz

ヤロン・ヘルマン (p)
ジヴ・ラヴィッツ (ds)

14:00 open
15:00 start

〈 Shibuya WWW 〉

9.2 sat

〈 Shibuya WWW X 〉

Ravid Kahalani(vo, Gimbri)
Shanir Blumenkranz(b, oud)
Rony Iwryn(perc)
Dan Mayo(ds)
Tomer Bar(key)

Yemen Blues

19:15 open
20:15 start

The Room All Stars
沖野修也 Shuya Okino(KYOTO JAZZ MASSIVE/KYOTO JAZZ SEXTET)(MC)
平戸祐介 Yusuke Hirado[quasimode](key)
元晴 Motoharu(ex.SOIL&PIMP'SSESSIONS)(sax)
栗原健 Takeshi Kurihara[mountain mocha killmanjaro](sax)
池田達一 Kenichi Ikeda(ROOT SOUL)(b)
Tetta Tetta(JariBu Afrobeat Arkestra)(g)
西岡ヒデロー Hiderow Nishioka[Central/Conguero Tres Hoofers](tp)
藤井伸昭 Nobuaki Fujii(ds)
Hanah Spring Hanah Spring(vo)
沖野好洋 Yoshihiro Okino(KYOTO JAZZ MASSIVE/SPECIAL RECORDS)(DJ)
Special Guest; Monday 満ちる Monday Michiru(vo)

The Room Night at WWW X

19:15 open
20:15 start

The Quartet NL

ピーター・ビーツ
Peter Beets(p)
ベンジャミン・ハーマン
Benjamin Herman(sax)
エルンスト・グレアム
Ernst Glerum(b)
ハン・ベニンク
Han Bennink(ds)

14:30 open
15:30 start

〈 Shibuya WWW 〉

9.3 sun

〈 Shibuya WWW X 〉

カフカ野

ジム・オルーク Jim O'Rourke, 石橋英子 Eiko Ishibashi, 山本達久 Tatsuhisa Yamamoto
Kafka's Ibiki

14:30 open
15:30 start

Cory Henry & The Funk Apostles

19:15 open
20:15 start

fox capture plan

岸本亮 Ryo Kishimoto(p)
カワイヒロ Hidehiro Kawai(b)
井上司 Tsukasa Inoue(ds)

19:15 open
20:15 start

東京JAZZは、日本最大級のジャズ・フェスティバルとして、2002年より多くの音楽ファンを楽しませてくれました。16回目の今回は、会場を丸の内から渋谷に移して開催されます。メインホールはNHKホールで、チック・コリア、リー・リトナー、渡辺貞夫など、レジェンド級のプレーヤーから、今をときめく新世代まで顔を揃えています。また、代々木公園ケヤキ並木には野外ステージが、セルリアンタワー能楽堂では日本の伝統文化とジャズを融合したステージが繰り広げられます。渋谷駅構内やセンター街でもプログラムが予定され、会期中は、渋谷がジャズ一色になるでしょう。そんな中、注目したいのが、スペイン坂の頂上にある、通称“ダブダブ”「WWW」と「WWW X」です。ジャズ・ファンには馴染みがないかもしれませんが、ここは元々ミニシアター「シネマライズ」があった場所。その特性を活かした空間性と音響が話題を集め、メジャーからインディーまで個性的なブッキングで人気です。ジャズは大きなホールで、ゆったり席に座って鑑賞するのもいいですが、いわゆる“箱”という空間で、ミュージシャンが生み出す音を全身に浴び、他のオーディエンスとともに体感するのも素晴らしいのです。薄暗くざわざわとした雰囲気や、バーカウンターでビールやカクテルを注文するスタイルが、東京JAZZで味わえるなんて。ラインナップも、一口でジャズとは言い切れない、ジャンルを越境した音楽性のミュージシャンばかり。東京JAZZが提案する、“新しい音楽”が集結するといっても過言ではないでしょう。

1日目、「WWW X」に登場するSelim Slive Elementzは、音楽ジャーナリストの小川隆夫とquasimodeのピアニスト・平戸祐介を中心に、サクスには元SOIL & “PIMP” SESSIONSの元晴とMountain Mocha Kilimanjaroの栗原健、ギターにはcro-magnonのコスガツヨシらを迎えたスペシャルなグループ。サウンドは、21世紀のエレクトリック・マイルスといった趣で、昨年6月の結成以来、既にいくつかのライブを成功させ、好評を博しています。WONKは、ジャズとソウルをヒップホップ世代ならではの視点で独自に表現し、昨年にブレイクした若手のエクスペリメンタル・ソウル・バンドです。また、THE GRAVITY PROJECTを率いるポール・グラボウスキーはヨーロッパ・ジャズ・シーンで知られたピアニストで、ジョニー・グリフィン、チェット・ベイカーといったジャズメンとも共演を重ねています。NHKホールだけではなく、“ダブダブ”にも実はこういった重鎮が登場するので、コアなジャズ・ファンも要注目ですよ。

2日目もコスモポリタンな顔ぶれに。TRI4THは、ヨーロッパのフェスに出演して着実にキャリアを積んでいる実力派グループ。切れ味のいいハード・バップなスタイルにぐいぐい引き込まれます。そして、イスラエルから最先端なミュージシャンも登場します。まず、ラビット・カハラーニ率いるイエメン・ブルースは、ジャズ、ファンク、ロック、ダンスミュージックを融合させたミクスチャー・バンド。8月発売の新作はビル・ラズウェルがプロデュースを手掛け、個性派スタイルを貫いています。私も楽しみにしている、ヤロン・ヘルマンとジヴ・ラヴィッツのデュオも紹介しましょう。同じく共にイスラエル出身で、若いプレーヤーですがキャリアも十分。ヤロン・ヘルマンは今年ブルーノートから新作を発表、感度の高いリス

ナーから支持を集めています。ジヴ・ラヴィッツは今回、NHKホールでシャイ・マエストロ・トリオに参加しますが、ヤロンとのデュオでどんなビートを叩くのか楽しみで仕方ありません。例えば、ブラッド・メルドーとマーク・ジュリアナのようなプログレッシブな演奏に震えたリスナーにもおすすめ。夜になれば、渋谷の老舗クラブ「The Room」のオーナーで、DJとしても活躍する沖野修也が、The Room 25周年を記念した豪華グループにゲストのMonday満ちるを迎え、ハービー・ハンコック、ジョージ・デュークなど、90年代以降のクラブ・シーンを彩った名曲を演奏します。沖野氏も「クラブを卒業した大人達に来てほしい」と語るように、90年代を渋谷で過ごした世代には、たまらない夜になるでしょう。

3日目もすごいステージが用意されています。まず「WWW」に登場するThe Quartet NLは、聴いたことがないグループ名だと思いますが、そのメンバーにジャズ・ファンは驚きを隠せません。ピーター・ビーツ、ベンジャミン・ハーマン、エルンスト・グレラム、ハン・ベニンクといったオランダ・ジャズ・シーンを代表するプレーヤーが集結しているのですから。ヨーロッパらしいハード・バップやフリー・ジャズも得意な面々だけに、ライブハウスならではのエネルギー溢れるステージに期待したいです。コーリー・ヘンリーは、NHKホールで挟間美帆率いる「JAZZ100年プロジェクト」にも出演しますが、単独となるステージは貴重。グラミー賞も受賞したスーパーグループ、スナークー・パピの鍵盤奏者としても知られていますが、今回はThe Funk Apostlesを従えて、ジャズ、ソウル、ファンクを縦横無尽に往来するサウンドで魅了してくれるでしょう。そして、この日の「WWW X」は、ある意味、今回の東京JAZZを象徴するステージかもしれません。カフカ軒は、ジム・オルーク、石橋英子、山本達久という玄人好みのミュージシャンによるトリオです。ジム・オルークといえばシカゴ音響派以降、ロックにとどまらず精神的に活動する鬼才。石橋英子や山本達久は、まだ知名度は低いかもしれませんが、今後のジャズ界を盛り上げる注目プレーヤー。ピアノとドラムと電子音の即興で繰り広げるスタイルが、未知なる扉を開けてくれるはず。トリはご存知、fox capture plan。結成は2011年と最近ですが、ドラマ「カルテット」の音楽も担当し、人気も評価ももうなぎ登りです。テクノやポストロック的なビートと、流麗なピアノのフレーズ、ウッド・ベースのグルーブも抜群。ジャズという言葉では通用しない、21世紀らしい見事なサウンド・デザインで、ピアノ・トリオという概念も払拭してくれるでしょう。

ジャズの歴史がスタートして100年が経ち、新たな100年に向かう転換期に、“ダブダブ”のステージは、ジャズの未来を示してくれるかもしれません。“JAZZ NOT JAZZ”という言葉がありますが、ジャズが本来もっている自由な音楽性を、ぜひここで感じ取っていただきたいです。

山本 勇樹 (HMV/Quiet Corner)

HMV本部でワールド/ジャズを統括後、現在は「HMV&BOOKS TOKYO」で音楽バイヤーを担当多数のCDの選曲やライナー・ノーツを手がける他、人気フリーペーパー「Quiet Corner」を監修



16th TOKYO JAZZ FESTIVAL

- the CLUB -
〈 Shibuya WWW & WWW X 〉
All Tickets ¥3,800
includes tax
all standing
drink fee charged at the door

